

第3学年 図画工作科学習指導案

題材 「おじいちゃん おばあちゃんと いっしょに」(絵に表す)

題 材
指導観

○ 本学級の児童は、1学期に題材「話したいことー花笠音頭をおどったよー」で運動会で花笠音頭を踊ったことを絵に表した経験がある。その学習の中で児童は、自分が中心となる題材や水彩絵の具に興味や関心を持ち、楽しく学習に取り組んだ。この運動会の絵では、友だちやお家の人に自分の表したい思いがよく分かるように、自分が踊っている様子を大きく表現し周りの様子を考へて画面を構成した。また、割りばしペンを使った線描きや水彩絵の具のパレットや水入れの扱い方、簡単な混色や重色をしながら彩色する学習をしている。課外では、絵手紙を描く経験もしている。

しかし、自分の表したいことを明確に持つことや自分が中心に表したいものが表れるような画面の構成をする際にも固定した発想のまま表現に向かい自分の思いがふくらんでいない児童も見受けられる。水彩絵の具の筆を使った彩色については、経験が少なく、筆のタッチや混色や重色、水の量による濃淡、色の組み合わせなど自分の思いに沿った表現の工夫が十分とはいえない。

○ 本題材は、総合学習で地域に住む高齢者から昔の遊びやご飯炊きなど教えてもらう経験の中で驚いたこと、嬉しかったこと、楽しかったこと、発見したことなどを線描材や画面の構成、色や水彩絵の具の表現方法を工夫しながら自分の思いを絵に表すのがねらいである。本題材を児童が取り組む上で、次のような価値があると考へる。

- ① 1学期の総合学習で高齢者と継続して囲碁・お手玉・竹とんぼ・あやとり・ハーモニカ・絵手紙・ご飯炊きなどを教えてもらった経験は、児童にとって新鮮な出来事であると同時に身近に興味や関心を持って自分の思いをふくらませながら絵に表すことができる。
- ② 実際に自分がどこで、なにをしたかをはっきりとさせることができ、自分の表したいことを明確に持つことができる。
- ③ 自分の思いに合った線描材の選択による表現の工夫や水彩絵の具の混色や重色、筆のタッチ、色づかいなどを生かした表現ができる。

○ 本題材の指導と評価にあたっては、まず、この題材で育てたい力を明確にし、題材の評価規準および、それをもとにした評価基準をつくり評価の重点化を図るようにする。そして、児童の造形的な能力を伸ばすために、指導と評価の工夫を行っていきたい。

そのために、教師は、事前に1学期の総合学習から児童と高齢者との学習の様子を写真やビデオに記録しておく。また、これまでの図工の学習や絵手紙を描く活動の中で児童が見付けた水彩絵の具の表現技法を「絵の具の宝箱」として常掲しておく。2学期からは、ゲーム「花とちょうちょさん、なかまの色はどれだ？」で遊んだ後に、身の回りにある色紙や包装紙、葉っぱや木の実などを集めて赤・黄・緑・青に分類した「なかまの色コーナー」をつくるように呼びかけ、その後の配色などの表現に役立つようにする。児童は、1学期から高齢者と遊んでもらったり教えてもらったりしたことを「ふれあいノートーおじいちゃんおばあちゃんといっしょにー」に絵や言葉でかいておく。

はじめに、ふれあいノートや写真・ビデオから、高齢者とのふれあいの中でのいろいろな経験を話し合い楽しかったことやうれしかったこと、驚いたことなどを想起する。ふれあいノートから高齢者との関わりの中で一番自分の心に残った体験を考へ、「おじいちゃんに教えてもらいながら何度も何度も失敗しながら必死に竹とんぼを作り続けて完成したときのうれしさ」「おしゃれできれいな袋に豆を詰めて、一針一針いねいにお手玉をぬっていることの楽しさ」「やさしいおばあちゃんに見つめられながら知らなかったあやとりを楽しく練習してできた喜び」など自分のどんな思いを表していくかを考へるようになる。

そして、自分の表したい思いを表すために画面のどこに、なにを、どのくらいの大きさで配置すればよいか画面の工夫を具体物を操作しながら話し合う。ここでは、人物の拡大と縮小、人物を下からや横から見る視点変更、動作や姿勢、自分と人との位置や大きさの資料を提示することで表したい自分の思いがより明確に表せるような画面について深めたい。図工ノートに部分的なスケッチをした後、自由に動作化や切り

紙を動かしたりする活動を提案し、児童の思いを聞きながら思いに沿った画面の構想が練られるように助言していきたい。また、広い「試し描きコーナー」を設定し、自由に線描材や画面の表し方の工夫を試し描きできるようにしておくことで、表したい感じに応じた線描材や想像力を働かせその子らしい生き生きとした表現ができるようにする。試し描き後、画用紙に自分で選んだ線描材で線描きしていくようにする。

それから、自分の表したい思いや表したい感じが表れるように水彩絵の具で工夫して彩色する。児童が表したいことに応じた水彩絵の具の表し方の工夫を資料で提示する。絵の具の筆のタッチによる表し方の工夫、絵の具の水の量を加減することによる表し方の工夫、絵の具の色を重ねることによる表現の工夫、絵の具の色を混ぜ合わせることにによる表現の工夫などを提示し、児童が表したいことに合わせて参考にしながら自分の表したいことがよく表れるように水彩絵の具を工夫して使えるようにしていき、児童の思いを広げていきたい。また、おじいちゃんやおばあちゃんと自分との肌や髪の色がいに気付くような言葉かけもしたい。また、絵の具を使った表し方を試すことのできる場を設定し自由に表現方法を試すことができるようにする。机間巡視をして児童の思いを聞きながら、絵の具の表し方の工夫や色の組み合わせなどの相談に乗ったり助言したりしていきたい。その際、資料コーナーを見て確かめてくるように促したり演示や色の組み合わせや表現方法のヒントになるようなカードを準備しておき具体的に示したりする。表現の途中に交流を設けて友達のよさを自分の作品に取り入れていくようにしたい。

最後に、自分の表したかったことや表現の工夫を交流し作品づくりの満足感を味わうようにする。作品は、公民館に掲示して高齢者の感想を頂くようにする。評価においては、自己評価カードや相互評価カード「みつけたよカード」で学習のふりかえりや次時のめあて、自分や友だちの表現のよさを広げるようにする。教師は、題材の評価基準を設定して、時間毎に評価する観点にした「評価基準一覧表」を作成し、子どもの活動を見取って、評価基準に達しているように個に応じた指導を行っていきたい。

目 標

- 地域のおじいちゃんおばあちゃんとの遊んだり学んだりした生活体験をもとに、喜びや驚き、おもしろさを感じ取り、心に残った感動を画面の構成や水彩絵の具の表現方法を工夫して絵に表すことができるようにする。

題材の評価規準・評価基準

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思いがよく表れるように楽しんで取り組もうとする。 ○ 自分の作品の工夫を話したり、友達の作品の工夫を聞いたりして自分の感じ方や見方を深める。 [鑑] 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見たり、聞いたり、触れたりしたことから自分の表したいことを思いつく。 ○ より思いが伝わるように、画面構成し、新たな思いを加えるなどして構想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思いに合わせた線描材を選び、画面の表し方を工夫して線描きする。 ○ 水彩絵の具を使って、心に残ったことの彩色の仕方を工夫して表現する。
評価基準(B)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者とのふれあいの中で心に残った感動を思い浮かべ、発表したり書いたりしている。 ○ 自分の思いを表現する事のできる表し方を考へ取り組んでいる。 ○ 自分の表現の工夫について紹介したり友だちの表現のよさを感じ取っている。 [鑑] 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の描きたいことを想像して、言葉や簡単な絵に表し、見通しを立てている。 ○ 自分の表したいことが表れるように画面の中でどこに、なにを、どのくらいの大きさで表すかを構想を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 画面の中に中心に表したいものの位置や大きさ、動きなどを工夫しながら線描きをしている。 ○ 自分の表したい感じや様子がよく表れるように、水彩絵の具の彩色を資料などをもとに工夫している。

指導と評価の計画（全6時間）

時数	子供の活動	評価基準 (B)			指導 (活動提案・材料提案など)
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合学習の時間でおじいちゃんおばあちゃんといっしょに遊んだり学んだりしたことを話し合う。 ○ 総合のふれあい活動の写真やビデオを見る。 ○ ふれあい活動で驚いたこと、楽しかったこと、うれしかったことなどを話し合う。 ○ ふれあいノートから一番心に残っていることに絵を表すことを考え、図工ノートに整理する。 ○ 友達と自分の表したいことを交流する。 ○ 自己評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者とのふれあいの中で心に残った感動を思い浮かべ、発表したり書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の描きたいことを想像して、言葉や簡単な絵に表し、見通しを立てている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 写真やビデオの映像資料を提示したり、実物（こま・囲碁・竹とんぼ・お手玉・あやとり・おかま等）を展示したりして五感に訴えるように感動体験を想起する。 ○ 「ふれあいノート」から、高齢者とのかかわりの中で感動体験を想起して絵に表していくことを具体的に考えていくようにする。 ○ 図工ノートに絵に表したい喜びや驚きなどを言葉でまとめ、自分が表したいことを明確に持つようにする。 ○ ふりかえりカードで自己評価をする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の思いを表すための画面の構想を練る。 ○ 中心に表したいものが表れるような画面を具体物を使って操作しながら話し合う。 ○ 手足やものの形がはっきりしないものはラフスケッチをする。 ○ 自由選択で切り紙を動かしながら、画面のどこになにをどれくらいの大きさに配置するかを決定する。 ○ 筆やスケッチペンなどで試し描きをする。 ○ ふれあい体験への自分の思いをもとに画面づくりの工夫を生かしながら線描きする。 ○ 線描きを交流する。 ○ 自己評価をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の表したいことが表れるように画面の中でどこに、なにを、どのくらいの大きさに表すかを構想を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 画面の中に中心に表したいものの位置や大きさ、動きなどを工夫しながら線描きをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師が準備した具体物を黒板で操作しながら、中心に表したいことを効果的に画面に構成していくことを具体的にイメージできるようにする。 ○ 頭と体のバランス、手（指）や足の形、視点を変えた顔の様子、中心に表したいもの（手）を大きく強調して表した例や画面構成の例を資料提示する。 ○ 「試し描きコーナー」を設定して自由に小筆やコンテ、スケッチペンで線描きや構成を試しながら自分が表したいことに近づけていくことができるようにする。 ○ 線描材（スケッチペン・竹ペン・コンテ・筆）を選ぶ上で参考になる資料を提示する。 ○ 机間巡視をしながら、児童の相談に乗ったり助言や称賛の言葉かけをしていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の表したいことがよく表れるように、水彩絵の具を工夫して彩色する。 ○ 自分の思いに応じた表し方を資料を参考にしながら工夫して彩色する。 ○ 資料コーナー 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の思いを表現する事のできる表し方を考え取り組んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の表したい感じや様子がよく表れるように、水彩絵の具の彩色を資料などをもとに工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水彩絵の具についての既習事項を掲示しておきいつでもふり返ることができるようにする。 ○ 思いに沿った表現の参考になるように水彩絵の具の表し方の工夫の資料を提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵の具の筆のタッチ（点・線・面）による表し方の工夫 ・ 絵の具の水の量を加減することによる表し方の工夫 ・ ぼかしやにじみを使った彩色の工夫 ・ 絵の具の色を重ねることによる表現の工夫 ・ 絵の具を混ぜ合わせることによる表現の工夫 ○ 机間巡視をして児童の思いを聞きながら、より表したい感じが表せるように資料コーナーを見るように促したり演示したりしていく。 ○ 表現の試しの場を設置して、色づくりや技法を自由に試しながら自分の作品に生かして生けるようにする。 ○ 児童の彩色のよさを他の児童に紹介して表現のよさを広げていくようにする。 ○ 彩色の途中に「みつけたよカード」でよさを交流するようにする。 ○ ふりかえりカードで自己評価する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 透明水彩的な彩色や透明水彩的な彩色混色や重色の資料 ○ にじみやぼかしの資料 ○ 筆のタッチのちがいによる工夫の資料。 ○ 自分やおじいちゃんおばあちゃんの肌や髪の毛のちがい ○ 色の組み合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達との交流から自分の思いを表現する事のできる新たな表し方を考え取り組んでいる。 			
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 試しの活動コーナーで思いに沿った表し方を試し、自分らしい表現を見付け、思いを広げていく。 ○ 作品の交流をする。 ○ 自己評価をする。 ○ 友だちの作品の表現方法から参考になることを取り入れて彩色する。 ○ 自己評価する。 				
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が表したかったことや工夫したことを作品紹介カードに書く。 ○ お互いの作品を見ながら鑑賞カードに表現のよさや違いを書く。 ○ 自己評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の表現の工夫について紹介したり友だちの表現のよさを感じ取っている。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品を鑑賞するときには、ふりかえりカードに、自分の思いが十分に表現できたかや鑑賞の視点を確認にして「みつけたよカード」を書くようにし、児童の思いや作品のよさが十分に伝わるようにする。 ○ 作品を公民館に掲示して高齢者からも感想を書いてもらい絵に表す喜びを味わうようにする。

第3学年2組 本時図画工作科学習指導案（3／6時間）

場所 図工室

本時の目標

- 自分の思いを表現する事のできる表し方を考え取り組んでいる。（造形への関心・意欲・態度）
- 自分の表したい感じや様子がよく表れるように、水彩絵の具の彩色を資料などをもとに工夫している。（創造的な技能）

本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	評 価 基 準 (B) ・ 評 価 方 法	指 導 (活動提案・材料提供など)
<p>1. 本時の活動について知る。</p> <p>(1) 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて 自分の表したい顔やようふくの感じを、水さい絵の具で色や筆の使い方を工夫して表そう。 </div> <p>(2) 自分が表したいことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表したい思い ・表したい自分やおじいちゃんやおばあちゃんの様子や感じ など <p>2. 水彩絵の具の表現の工夫について資料をもとに話し合い、自分の表現への彩色の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○筆のタッチによる表現の工夫。 ○色を混ぜて新しい色をつくることによる工夫 顔や手足の混色 ○にじみやぼかしによる表現の工夫。 ○色を重ねることによる表現の工夫。 ○水の量の加減による色の濃淡。 <p>3 自分が表したいことを工夫して彩色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○顔や手足、洋服で中心になる自分が表したいところから彩色する。 ○自分の表したい思いに沿った表現方法を見つけて考え判断しながら彩色する。 ○混色や重色、筆使いを工夫しながら彩色する。 ○色や筆のタッチなど試しながら彩色する。 ○おじいちゃんおばあちゃんと自分の肌のちがいを表し方を工夫して彩色する。 <p>4 本時の学習をふり返り、次時の学習を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図工ノートに今日の学習をめあてにそってふり返り、次時の学習の見通しを持つ。 	<p>(造) 自分の思いを表現する事のできる表し方を考え取り組んでいる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ○ 提示資料、自分の机や試しの場での試行活動による見取りを行う。 ・ 表し方の資料や既習の表現方法を試す活動を行いながら自分の思いにあった表現方法を見出そうとしている。 行動・つぶやき </div> <p>(創) 自分の表したい感じや様子がよく表れるように、水彩絵の具の彩色を資料などをもとに工夫している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ○ 作品による見取りを行う。 ・ 自分の表したいことに合わせて、絵の具での混色や重色、筆の使い方、色づかいなどの表し方の工夫をしている。 作品 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習資料を掲示し、これまでの学習をふり返るとともに表現への意欲を喚起するようにする。 ○ 本時のめあてを活動目標にし、具体的にとらえられるようにする。 ○ 図工ノートをもとに児童が自分の表したい思いを想起するようにする。 ○ 絵の具の多様な表現や筆の使い方の資料などを提示して、自分の表したいことに合わせて児童が取り入れ、表現の工夫を組み合わせるなど、自分なりの表現を工夫できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・にじみやぼかしの工夫 ・混色の工夫 ・重色の工夫 ・筆の使い方(点々ぬり、線ぬり など) ・顔、手足の混色の例 ・水の量による濃淡 ・不透明な表現 ○ これまでの葉っぱ(絵の具)や自分の顔(色鉛筆)を描いた学習経験を本時の学習とつなぐようにする。 ○ 試しながら自分の思いにあった表現が見つけられるように、児童一人一人に思いにあった表現を見つけるための「ためしのカード」を配付しておくとともに自由に表現の工夫を試す場を設定する。 ○ 机間巡視をして、児童の思いを聞きながら相談にのったり演示したりしていく。 ○ 児童の工夫した効果的な表現を他の児童に紹介していきながら、表現のよさを広げるようにする。 ○ 表現のよさを称賛したり励ましたりして、意欲づけをする。 ○ 本時のめあてやふりかえりの観点をはっきりさせながら自己評価をするようにする。